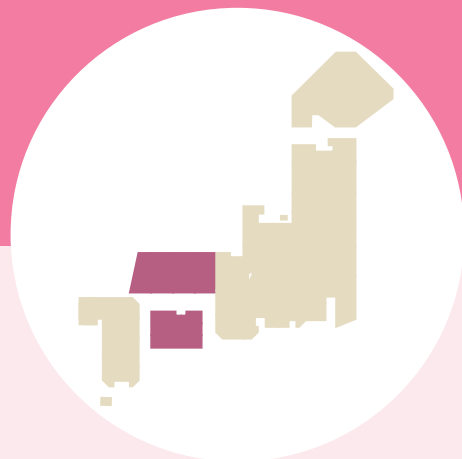


中国・四国



p.46 鳥取県

北農秀雄さん
水泳



p.47 島根県

岡光信さん
ゲートボール



p.48 島根県

森本敏雄さん
スポーツ
ウエルネス吹矢



p.49 岡山県

須賀孝さん
スポーツ
ウエルネス吹矢



p.50 岡山県

福田厚子さん
太極拳



p.51 山口県

野村勝行さん
弓道



p.52 山口県

半田登志夫さん
ゲートボール



p.53 香川県

大西好久さん
水泳



p.54 香川県

宮崎千恵子さん
スポーツ
ウエルネス吹矢



p.55 高知県

有澤美佐さん
マラソン



p.56 広島市

中倉照郎さん
サッカー





水 泳

自由形 50m バタフライ 25m

「鳥取県」(選手)

きた のう ひで お

北 農 秀 雄 さん 74 歳

● 参加歴：2 回目

大会の悔しさをバネにとっとり大会での飛躍を誓う

鳥取県の選手団派遣のルールでは、連続でねりんピックへの参加はできませんが、令和6年度が地元開催のため特例としてえひめ大会、とっとり大会と連続して出場できるとのこと、予選会となる令和5年3月のマスターズ鳥取大会に出場することを、マスターズ水泳連盟の方にいの一番に伝えました。

当初は、ねりんピックの開催までまだまだ時間があつたので特別な練習をしていませんでした。しかし令和5年9月はじめに県内で開催された大会において、自分の結果が大変残念な記録に終わりあまりにショックでしたので、それまでの練習方法をガラリと変更し、泳ぐ距離ではなく、瞬発力の出る方法に切り替えました。

いよいよねりんピックの開催となり、鳥取県選手団のバスで愛媛県入りをしました。水泳チームのメンバーは総合開会式には参加をせず各人が自由行動をし、私は何人かのメンバーと一緒に松山城を観光に行き、城内の様子や松山市内の風景を楽しみました。その後、皆と一緒に水泳会場である「アクアパレットまつやま」に行き、玄関口で鳥取県の歓迎用ののぼり旗の前で写真を撮影。会場に入るやいなや大人数で大きな拍手で迎えられ、ちょっと照れくさかったな、と思ったことを覚えています。

交流大会では、恥ずかしながら私は表彰台には乗ることはできませんでした

が、50m 自由形では9月の県内大会の時より2秒近く記録を縮めることができたので、少し気持ちが楽になりました。鳥取県チームは、初日に50m 背泳ぎで前田京子さんが2位、翌日もまたもや前田さんが25m 背泳ぎで2つ目のメダルを獲得して大健闘されました。えひめ大会はこの2つのメダルで終わったので、大会に参加した皆は悔しかったようで、令和6年度のとっとり大会では頑張るぞとの雰囲気を感じられましたし、私も必ず表彰台に乗るぞという気持ちでいっぱいです。

えひめ大会は、愛媛入りしてから大会が開会するまで非常に天気が良く、そして大変温かく皆さんに迎えてもらいました。心優しいボランティアの方やスタッフの方、本当にありがとうございました。

また、この大会では水泳チームの責任者もさせていただき、ほかのメンバー7人への連絡や資料送付など少々きついところもありましたが、今思うとそういうこともやってみると勉強になったと思っています。

次のとっとり大会に向けて、チャンスがあればぜひもう一度チャレンジしたいと思います。水泳競技に参加された皆様、関係者の皆様、ありがとうございました。



鳥取県ののぼり旗を囲んで
チーム全員で記念撮影。
(後列左から3番目)



ゲートボール 「伊野」(選手)

おか みつ のぶ
岡 光信さん 74歳
● 参加歴：2 回目

ワンチームで悲願の全国優勝！

2023 年 4 月に、島根県ゲートボール協会主催の県大会が出雲ドームであり、全国大会出場の切符をいただきました。

その後は、月 1～2 回のペースで交流試合を重ねてきました。土のグラウンド、人工芝、屋外屋内と場所を変えながら、距離感覚を確認し、アドバイスを交えながら切磋琢磨してきました。今回のねりんピックは 5 人の選手のうち、女性が 2 人以上、また 70 歳以上が 1 人以上出場しなければなりません。

2 日間にわたり全 117 チームが、15 のコートで予選 3 試合に臨み、頂点を目指しました。

我が伊野チームは初戦に緊張しやすいのですが、無理をせず堅実なプレーを心掛けることで乗り切り、波に乗ることができました。

予選を 3 勝し決勝トーナメントに進出しましたが、各チームの力に差はなく、苦戦が予想されました。実際は、予選時の作戦を持続しながら、

ワンチームでつなぎ、要所での的確なロングタッチを決めるという、良いパターンでの勝利となりました。決勝戦の相手とは何回か対戦したことがあり、難しい試合でしたが、僅差で勝利することができました。この優勝という成績はゲートボール関係者の方たちや、県民市民のみなさまの応援のおかげだと感謝しております。

チームの球歴は 20 年以上になり、支部、地域、学校などに積極的に参加をしています。特に、小・中学生の皆さんと長い交流を持っています。3 月に県協会主催の小学生大会、7 月には支部主催のジュニア親善ゲートボール大会、夏休みには全国ジュニア 2 部の彩の国くまがやドームでの全国大会参加等、活動は広範囲です。

また、会員に審判資格取得に取り組んでもらい、新規会員のみなさまへのお世話もこなしてもらっています。会員が減少している中、今大会の結果で少しでもゲートボールに関心を持っていただき、新しい会員さんと楽しく時間が過ごせたらと思っています。

これからも頑張っていきます。



頂点を目指し堅実にプレー。(左)



ワンチームで勝ち取った優勝に喜びもひとしお。(前列中央)



スポーツウエルネス吹矢

「島根県 A チーム」
(監督兼選手)

もり もと とし お

森 本 敏 雄 さん 82 歳

● 参加歴：8 回目

素晴らしいねんりんピックを目標に

ねんりんピック愛顔のえひめ 2023 のスポーツウエルネス吹矢に監督兼選手として参加しました。

私は、60 歳から 80 歳までソフトバレーボールでねんりんピックに 6 回出場しました。ねんりんピックのすばらしさを実感して、生き甲斐とし、また目標としてやってきた経験から、80 歳でソフトバレーボールを卒業すると同時にスポーツウエルネス吹矢を始め、ねんりんピックを目指してきました。

交流大会は、焼き物で有名な砥部町でありました。試合当日も天候に恵まれ、砥部町のスタッフの皆さんの行き届いたおもてなしと笑顔に勇気をいただき、気持ちよく試合に臨むことができました。

大会が始まると、アリーナは静寂に包まれ、矢が的に刺さる音に交じって的中心を外した選手のため息のみがわずかに聞こえる、素晴らしい大会となりました。

スポーツウエルネス吹矢は、1 ラウンド 3 分で 5 本の矢を吹き、6 ラウンド 30 本の矢が刺さった位置の点数をもって勝敗を決定しますが、集中が少しでも薄れると狙った所に矢が刺さってくれません。したがって集中力を最後まで

で維持した者が概ね勝利者になります。私たち島根県 A チームも練習の成果と集中力を発揮することができ、混成の部で優勝チームと 4 点差の準優勝となり、銀メダルを獲得することができました。スポーツウエルネス吹矢の後進部としては上出来の結果に、宿泊ホテルで B チームと共に祝杯をあげ喜びを分かち合うことができました。この感激が総合開会式とともにねんりんピック参加の大きな魅力であり、目標とするところだと思います。

また、試合結果を担当役員に報告した時、選手団長をはじめ役員の皆さんが電話の向こうで万歳を三唱してくださり、改めて喜びがこみあげてきたのを思い出します。

地元に戻り、私たちは県内でスポーツウエルネス吹矢に取り組んでいる仲間にねんりんピックのすばらしさを伝えるとともに、切磋琢磨して次回のねんりんピックを目指したいと思っています。来年のとっとり大会ではスポーツウエルネス吹矢はないとのことで、本当に残念！目標を 2025 年のぎふ大会での金メダルに切り替えて頑張りたいと思っています。そして私としては 90 歳でねんりんピック参加を新たな目標にしようと思っています。



競技会場で島根県 B チームと一緒に。(右から 3 番目)



最後まで集中力を維持し、喜びの準優勝！(右端)



スポーツウエルネス吹矢 「岡山エース」(監督兼選手)

すが たかし
須賀 孝さん 69歳
● 参加歴：1 回目

新しい仲間の誕生、夢のような優勝

10月27日、「ねんりんピック愛媛のえひめ2023」へ出発だ！ 私たちのチームは、岡山県スポーツウエルネス吹矢協会の今井会長のご尽力により、岡山県の一歩西（笠岡市）の石田和成さん、広末愛子さん、一歩東（備前市）の須賀孝の3名の男女混成チームとして初めて参加させていただきました。

当日は岡山駅南地下通路広場に集合。結団式の後、バスに分乗して出発する予定が、落雷・豪雨のため約1時間の待機後に出発し、その日は今治のホテルに宿泊しました。部屋が真向いという好条件に恵まれ、廊下を隔てて約8mの距離の12cm四方の的に向かって合同練習を行い、食事後に「おやすみ」。

2日目は松山市に入り総合開会式へ。皇室の方のご臨席のもと日本各地の選手団が揃いのユニフォームを着て入場行進。愛媛県知事を筆頭に大勢のボランティアの方々を含め県をあげてのおもてなしには、感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。式前アトラクションもあったようですが、入場行進に参加したため、残念

ながら見物できませんでした。終了後にバスで種目別宿舎に向かいました。

3日目は砥部町の競技会場に入り、開始式後に競技開始となりました。昨年のプレ大会に参加したので会場の雰囲気には慣れてはいましたが、異様に緊張している自分に気づき、改めて気を引き締めて全集中。チームメイトにも声掛けをして緊張をほぐす努力をしました。今治での合同練習が功を奏して混成チームで優勝という嬉しい結果につながり、胸を張って岡山に帰ることができました。

このような大きな大会に出場でき、好成績につながったのは、今井会長のご尽力と家族の協力、関係各位のサポートがあったからだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

表彰式終了後、慌ただしく準備をして予約しておいたタクシーに飛び乗り、電車にギリギリ間に合い帰路につきました。車内では余韻に浸り軽く祝杯をあげ、岡山駅にて再会を願ってお別れしました。

来年は鳥取県での開催予定ですが、スポーツウエルネス吹矢は競技種目にはないため、次の機会に参加できることを目標に頑張っています。最後になりましたが、大会の準備並び運営に携わられた全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



新たな出会いに感謝しながらチームメイトと。(中央)



混成チームで見事優勝。感無量の表彰式。(左端)



太極拳

「美作協会チーム」(選手代表)

ふく だ あつ こ

福田厚子さん 71歳

● 参加歴：2回目

伊予の地で出せた優雅さと迫力！そして準優勝

私たちは太極拳を20年間切磋琢磨してきた仲間です。ねりんピックにはこのメンバーで出場したいという思いが叶い、みんなハッスルして大会を目指しました。

週4回の練習が始まりましたが、全く揃わない、曲にも乗れない、何度やってもできない。お互いが信じられず喧々囂々^{けんけんこうこう}の世界。そんなきつい時もありましたが、片道2時間半かけて通ってくる吉元さんに背中を押され、みんなで励まし合い、黙々と練習したものでした。練習の頻度、内容が濃くなるに連れて長時間練習も続きましたが、不思議と足腰の痛みも解消され、演技も揃い、曲も読める、動く楽しみも感じられました。

そして、リーダーの水島典子さんを筆頭に、神田美里さん、駿河里美さん、吉元通栄さん、松本和子さん——長年太極拳を愛し携わってきた今期最高のかけがえのないチームで出場することができ、竹内民子監督も加わってラッキーでした。

太極拳の試合は6、7人の集団で、8×7mのコートで4分以内のフォーメーション^{とうろ}(套路)

の組み立てで音楽に合わせて演技を行います。

私たちは羽生結弦選手のスケートの曲に合わせていくつかの見せ場を入れた難しい構成を、太極拳の仲間が付けてくれた1人700個のスパンコールが付いた華やかなユニフォームを着て演技しました。ほどよい緊張感のなか、仲間の声援を心強く聴き、良い予感を感じながら演技を楽しみました。結果、目標の9点台にのせることができ、準優勝することができました。

総合開会式は観客席でゆっくり堪能することができました。愛媛県知事の心打つ歓迎の挨拶をはじめ、西条市出身でテノール歌手の秋川雅史さんの力強い国歌斉唱にプロの力を感じ、心が清められ、大変感動しました。

大会当日の朝練(29日未明)では、最高の部分月食(次回、日本で見られるのは2025年)を見ることができました。日頃体験できないことに遭遇し、天気も最高、運命的なものを皆で感じ、伸びやかに優雅で力強い演技をしている様子が想像でき、大会前にも心が躍る体験をしました。

今大会に参加し、かけがえのない仲間たちの存在と素晴らしい思い出と、何歳になってもスポーツを楽しむ全国の仲間にも会え、意欲と感動をもらえました。

最後に、県内外の太極拳関係者をはじめ、大会関係者のご支援及び家族の協力のおかげで大会に参加できたこと、心より感謝しています。

ありがとうございました。



スパンコールが付いた衣装には仲間の想いが込められている。(右から2番目)



最後まで集中力を維持し、喜びの準優勝！(右から2番目)



弓道 「山口県」(監督兼選手)

の むら かつ ゆき
野村 勝行さん 74歳
● 参加歴：6 回目

監督・旗手の大役を果たした思い出の大会

60 歳になった時、周南市弓道連盟の友人より「60 歳以上の人が参加できる大会があるから一緒に参加してみよう」と言われ、山口県ねんりんピック予選に参加したのがきっかけで、2011 年ねんりんピックくまもと大会、こうち大会、やまぐち大会、あきた大会、和歌山大会、この度のえひめ大会と県代表で出場することができた。

2011 年のくまもと大会は、初出場で団体優勝の荣誉にも恵まれ、今後の大会に出場する意欲が湧いた大会でもあった。その後、こうち大会から和歌山大会まで県代表として出場するも、予選リーグは通過するが決勝トーナメント 2 回戦で敗退し、優秀賞が続いた。

2023 年 5 月、山口県ねんりんピック予選で県代表として 6 回目の出場が決まった時、監督をする人がおらず選手兼監督を引き受けた。6 月～9 月の練成会には、防府弓道場で弓道愛好者 40 名～50 名が参加してくれ、和気藹々と稽古に励むことができた。

また、県のねんりんピック結団式で旗手を依頼され、今までの大会とはひと味違う思い出

い記念の出場となった。総合開会式の入場行進は、今までは選手団全員が行進していたが、コロナ禍ということもあり各チーム代表の 20 名での入場行進となったが、県代表として全員が総合開会式に臨んだ。

弓道交流大会は今までとは競技内容が変わり、1 日目 9 中以上、2 日目上位 16 チームが決勝トーナメントに進出する方式となったが、選手全員の頑張りにより決勝トーナメントに進むことができた。トーナメント 1 回戦は岩手県と対戦し 8 中対 6 中で勝ち上がったが、2 回戦で宮崎県に敗退しベスト 8 で優秀賞で終わってしまった。しかし、ねんりんピックえひめ大会を選手全員が楽しく過ごすことができた。

えひめ大会を支えてくれた役員、ボランティアの皆さん、大変お世話になりました。また、山口県社会福祉協議会の事務局の皆さんにも大会最後までお世話になり本当にありがとうございました。



総合開会式では旗手として凛々しく行進。(中央)



呼吸を整え、意識を一つひとつの動作に集中させる。



ゲートボール

「ナイスボール」(選手代表)

はん だ と し お
半田登志夫さん 69歳
● 参加歴：2回目

ゲートボールは楽しいぞ！

ねんりんピック紀の国わかやま 2019 に参加してから新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、ナイスボールチームは今年6月、約4年ぶりに和歌山県で開催された全国選抜ゲートボール大会に出場。平均年齢が75歳になっていましたが、結果はベスト8でした。

前回のねんりんピックは優秀賞だったので、今回の参加に向けて1日3時間週4日練習を重ねベスト8以上を目指しましたが、予選リーグを3連勝でトーナメントに進み、練習の成果とラッキーもあって決勝戦に進出。残念ながら13対12で銀メダルになりましたが、選手みんなが良く頑張り、チームワークを感じました。

決勝戦は、お手伝いの高校生、審判団、役員の皆様がコート回りから応援くださり、大変有意義な決勝戦となり、楽しく競技することができ、感謝と悔いのない試合になりました。

決勝戦後、応援してくれた高校生達に、ゲー

ムはおもしろかったかと聞くと、多分ルールも解らないだろうに「おもしろかった」「ゲートボールをやりたい」と話してくれた。現在ゲートボール競技者が減少する中で、普及が難しく悩んでいた私にはうれしい言葉で、これからの普及活動を楽しく進めることができそうだと、今大会最高の収穫でした。ゲートボールは、小学生から高齢者まで、生涯スポーツとして同じコートの中で競技できるレクリエーションなので、三世代スポーツとしても普及する必要性を感じています。

ねんりんピックの別の楽しみは観光ができることで、今回は、今治と松山、さらに足摺岬、高知城、桂浜、祖谷のかずら橋を回り、地域の食物、景観を満喫しました。

次回のねんりんピックへ参加することを楽しみにして、会員の健康に留意し、楽しくゲートボールを続けていきます。



ナイスボールの仲間で記念撮影。(右から3番目)



表彰式の様子。銀メダル獲得に感無量。(中央)



水泳 背泳ぎ 50m 「スイマーカガワ」(選手代表)

おお にし よし ひさ

大西 好久さん 61歳

● 参加歴：1 回目

いざ、ねんりんピック愛顔のえひめへ

私がねんりんピックに出ることになったのは愛媛のお姉さまスイマーからの声掛けがきっかけでした。2022年の日本マスターズ水泳大会で、60歳からの国体(ねんりんピック)があることを聞き「2023年には愛媛で開催されるからおいで」と言われ心が動きました。

参加の仕方がわからなかったもので、多くの大会に出場している同僚にも聞きましたが、ねんりんピックには参加していないとのことでした。香川県水泳協会にも相談してみましたが、今まで香川からは参加していないことが判明しました。そこで水泳協会に参加の意思を伝え、次にかがわ健康福祉機構に相談したら、快く参加を受け入れてもらえました。

選手代表として、会議に参加し、メンバーと相談しながら移動手段、宿泊先等をまとめ無事参加してきました。メンバーも全員初参加で、大会を満喫しました。

今後、60歳を迎える方、60歳以上の方にねんりんピックのことを伝えていきます。

私事ですが、今年の健康診断で右肺に白い影が見つかり、精密検査の結果、6月に肺腺癌と

診断され、ペット検査等で転移がないことが判明して、8月末に右肺の一部を取り除きました。10月末のねんりんピックは観戦のみとして競技は棄権だと諦めていましたが、メンバーから「当日の判断で行きましょう。ねんりんピックを楽しみましょう」と励まされ、当日のアップスイムで泳げそうな気がして出場しました。結果は3位になりメンバーから祝福されました。しかし泳いだ後は酸欠状態になり、翌日の25mは棄権しました。

手術後は1カ月が経過してから水泳の練習を開始しましたが、25mを泳ぐのが限界でした。2カ月経過した頃には100mまで泳げるようになったのでいけると思いましたが、周囲から「無理したらいけない」「大会では気持ちも高揚し無理するのでダメだ」と言われていました。しかし当日のアップスイムで楽に泳げたので記録より記念を優先して参加することにしました。長距離専門で泳いでいたので、短距離は苦手でしたが、記念となる大会となりました。

開会式は入場行進のメンバーに選ばれ、皇族の挨拶を生で聞くことができました。最終日までメンバーと行動し、徐々に親交を深めることもできました。これからも健康に気を付けて「人生100年時代」に対応できる身体づくりをして

いきます。最後になりますが、かがわ健康福祉機構長寿社会部の皆様にはお世話になりました。愛媛県の大会運営に感謝して終わりの言葉とします。



大会出場へ背中を押してくれた香川県メンバーと。
(左から2番目)



大きな手術から見事に復帰して3位に輝いた。
(右端)



スポーツウエルネス吹矢 「サヌカイトリリース」(監督兼選手)

みやざき ちえこ
宮崎千恵子さん 72歳
● 参加歴：1 回目

仲良し3人組で勝ち取った優勝

「優勝、サヌカイトリリースチーム」——表彰式で司会者からこう発表された時、私たち3人は一瞬耳を疑いました。そして天にも昇る思いでメダルやトロフィーをいただきました。今まで練習してきた努力が報われた瞬間でした。

スポーツウエルネス吹矢を始めて11年、我がチームは同じ支部で練習する仲良し女3人組です。ねんりんピックが愛媛県で開催されることを知り、迷わず出ようということに決めました。香川県からは計12名の4チームが参加し、県を挙げて盛り上がりました。今回が初参加でしたが、結果は団体女子優勝、団体混成第4位、個人女子準優勝、同第5位と好成績を残すことができました。

試合前日、私は監督兼選手として監督会議から現地入りしました。監督会議は大会前日に砥部町文化会館で行われ、遠くは岩手県から、関東・九州からも参加された方々がいました。当日の進行について確認があり、その後開始式へと流れ、太鼓の演奏などの歓迎イベントもありました。その夜は松山市内のホテルに宿泊しま

したが、ホテルはねんりんピック参加者であふれており、町中がねんりんピック一色でした。

いよいよ大会当日。残りの選手たちが朝早く香川県から車で現地入りし合流しました。おそろいのベストを着た主催者の皆さんが気持ちよく出迎えてくれました。体育館前には砥部焼や土産品なども並べられ、歓迎ムード一色でした。体育館に入ると飲み物のサービスが用意されていました。開始式が終わりだんだん心臓が高鳴り始めました。とにかく練習通りに落ち着いて吹くことだけを意識しました。午前中に3ラウンドが終わり、得点の中間集計結果をLINEで確認することができましたがあえて見ないようにし、後半3ラウンドへ。戦いが終わり予想より得点が悪かったので落胆していましたが、表彰式でまさかの優勝でした。表彰式の後、カメラやマイクを持った方からのインタビューや写真撮影などがあり大変幸せな体験をさせていただきました。

スポーツを通じて全国の高齢者の方々とふれ合うことのできる素晴らしい祭典に、機会があればまた参加したいと思います。



実力を発揮して優勝したチーム「サヌカイトリリース」。(中央)



香川県選手団。(前列右から2番目)



マラソン 10km 「高知県」(選手)

あり さわ み さ
有澤美佐さん 61歳
● 参加歴：1 回目

息子へ「60代は速かった」

ねんりんピックを知ったのは1年前でした。60歳以上しか出られないおもしろそうな大会、しかも隣の県での開催ということで思い切って出てみると、私の想像していたものとはまったく別物の大会でした。軽い気持ちで参加を決めたのですが、終わってみればとてもすばらしくて、楽しくて、夢の様な2日間でした。

最近息子に言われているのです、「お母さんもう年なんだからマラソン止めたら？ 体に良くないで」と。私はもうそんな年齢なのかなあ、心配されるような年になったのかなあ。子どもに何気なく言われた言葉がその日以降ずっと頭の片隅にありました。でも、そんなことを言われても好きなランニングを止めたくないし、続けていきたい。それならば、ほかの60代の人ってどうなんだろう？ どんな走り方をするのだろう？ 全国の60代の走りを見たい気持ちも重なっての参加となりました。予選会が終わり、10月まではいつも通りの練習をして備えました。

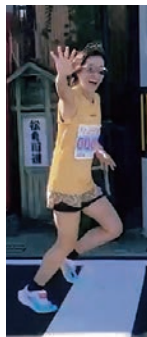
大会当日は朝からドキドキしていました。緊張のあまりスタートラインでは無表情だったらしく、同じ高知県選手団のランナーに「笑顔で笑顔で!!」と励まされ、笑ったと同時にスタートして走り出し。周りのランナーを目で追ってみると、その走りは私の想像を遥かに超えていました。女性ランナーがガンガン飛ばしていく。「え？ うそ？ このスピードではじめから行くななんて凄すぎる!! ついていったら絶対に後半がもたない。ここは前半は自分のペースを守り、後半少しずつ上げていこう。しかし女子の先頭はもうあんな所にいる。凄いなあ。全国には速い人がこんなにもたくさんいるんだ!! 凄い!!」と思う気持ちと同時に嬉しい気持ちにもなりました。勇気もらったという言葉をよく耳にしますが、まさしくその日、私は勇気もらったのです。

家に帰って息子に言いました。「60代なんてまだまだ走れるよ。全国にはものすごく速い人が沢山いたんだから。お母さんはまだやるよ、まだまだやれるから」。息子は「そうなが？ で、何番だった?」。順位よりもね、もっといい物をもらってきたんだよ。

大会が終わって2カ月近くになりますが、今も高知県選手団マラソンチームの人達との交流は続いています。練習方法、年齢との付き合い方など教えていただきながら楽しくランを続けましょうと話しています。素敵な仲間ができました。やる気スイッチも入りました。ねんりんを重ねた愛顔は、伊予にも高知にも咲きました。



高知県選手団メンバーでお疲れ会。男子3km (右上:明神さん)、男子5km (右下:宮部さん) で優勝。(左列中央:本人)



娘さん夫婦やお孫さんが応援にかけつけてくれ、ハイテンション!



サッカー

「広島市シニア 60 合同チーム」
(選手)

なか くら てる お

中倉 照郎 さん 67 歳

● 参加歴：6 回目

共に練習を重ねた広島県勢 2 チームでダブル優勝

今大会、私は選手兼主務として、参加費の集金・支払などの会計業務や事務手続き、スケジュール管理等、裏方として監督をサポートしました。広島県には 60 歳以上のチームが 9 チームあり、その中の 4 チームから選抜された 19 名で参加しました。

大会前に、チームとしての一体感の醸成とコンビプレーの強化を図るため、広島県代表の「広島県選抜」と練習試合を重ねてきました。普段は所属チームに分かれてプレーをしています、一緒にプレーすることでワンチームになりました。

チーム目標を「全員出場」と「ブロック優勝」として大会に臨みました。1 日目の初戦は、「愛知セレクト」と対戦。立ち上がりは相手の気力・体力に圧倒され危ない場面もありました。後半は互角の戦いでしたが得点できず 0-0 の引き分け。続く 2 戦目は、「東京都 B チーム」と対戦。前半ペナルティーキックで先制することができ、その勢いで優勢に試合運び 3-0 で勝利。2 日目の第 3 戦は、「堺市」と対戦。最後の力を振り絞って頑張り、4-0 で勝利。後半にはそれまで出場していなかった監督が出場し、「全員出場」の目標を達成。ブロック最終戦を残し、2 勝 1 分け、勝点 7、得失点差 7。ブロック最終戦で「愛知

セレクト」が 2 点差以上で勝てば「愛知セレクト」が優勝でしたが、1-0 で終わったため勝点・得失点差とも並びました。結果、順位を抽選で決定することになり、柴田監督が 1 位を引き当て、「ブロック優勝」。「広島県選抜」もブロック優勝しており、広島県勢はダブル優勝です。

会場のピッチは天然芝でよく整備されており、スタッフの皆さんにも細やかなご対応をいただきました。気持ちよくプレーすることができ、感謝申し上げます。

主務として印象に残っているのは、宿泊先に 1 室 11 人の大部屋があったことです。大会前からメンバーには不評で対応に苦労しました。翌朝には「いびきの大合唱で眠れなかった」と不満の声もありましたが、大会を終えてみると「修学旅行以来の楽しい思い出になった」との声をいただき、ほっとしたところです。

私自身としては、同年代の皆さんのプレーを見てサッカーの楽しさをあらためて感じました。これからも生涯現役として続けていきたいと思います。最後に、大会関係者の方々、公益財団法人広島市文化財団の皆様、大変お世話になりました。



最終戦のゲーム風景。(右から 5 番目)



表彰式終了後、金メダルを手に笑顔のチームメンバー。(後列左から 4 番目)